
雨

忍冬

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

雨

【Nコード】

N6971P

【作者名】

忍冬

【あらすじ】

アーサーがひたすら菊の描写してる話。

前に別のサイトに投稿したのを微妙に直しました。

(前書き)

えっと…BL注意です……

？

？？

「いつから あいつがあんなに愛しくなったのかはわからない。
でも、これだけは本当だ。」

「あいつは俺を孤独という暗闇から救い出してくれた。」

？

「あの、綺麗な白い手で。」

？

*

「……アーサーさん？」

「……ん。ちょっとぼーっとしてた。悪いな菊」

「『いいえ』」

「そう言って手に持った傘を傾げる菊。」

？

「傘の先に付いた絹糸の房飾りがさらりと揺れる。」

「黒の漆塗りの骨組と朱い紙でできた傘。」

「その下の黒い着物姿の菊。」

??色白の彼には黒がよく似合う……………。

??ぼんやりとそんなことを思ってた。

??「アーサーさん？」　　？　　？　　？　　？　　？　　？　　？

「あ、……………すまないな。最近なんだか疲れやすくて……………どうしてだろう」

？

「まあ、それは大変ですね」

？

??黒目がちな瞳を少しだけ見開く菊。

??その目の色の深さにため息をつく。

「……………大変って程じゃないけれど……………特にこんな日は物思いにふけりたくなる」

「わかります。こんなに美しい雨の日は……………」

??彼は空を見上げる。

??その横顔の輪郭が緩やかな曲線美を描いている。

しつとりと降る雨。

灰色の空に朱い傘。

？黒い着物。

?? 白い肌。

?

*

?? 「まあ……………」

菊が驚いた様な声を立てた。

「どうした……………」?

「あれを御覧下さい」

?? 菊が優雅な動作で指し示したのは、一羽の小鳥。

地味な枯れ葉色の小さな鳥。

「あの小鳥は……………不如帰っていうんです」

「お前ん家の和歌によく詠まれているやつだな」

「まあ。よくご存知ですね」?

大好きなお前が好きなものを俺が知らないはずがない。

思ったが、口にな出さなかった。

「では、これはご存知ですか?」

彼が少し哀しそうに言う。

??「不如帰はね、血を吐きながら鳴くんです」

「……………え……………」

「昔から、そう言われているんです」

「……………それは……………つまり……………」

??「何事にも命がけということですよ……………。私達みたいに」
「……………そっか。そうかもな」

?

*

??「やがて、大きな戦争が起きる。」

?

??「世界中が巻き込まれる。」

「俺と菊も、きっと敵味方に分かれてしまう。」

「でも、俺達が命をかけて戦っても……………。」

??「雨だけは、きっと変わらずに静かに降り注ぐ。」

??「そして、俺に思い出させるのだ。」

??「この、淡い初恋を。」

??END

（後書き）

ありがとうございます（*^|^*）

わたしは連載書かないで何してるんでしょうね……がんばって書きますから待っててください。（・_・。）

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6971p/>

雨

2010年12月30日21時39分発行